

Q&A(よくある質問)

Q1 使い捨てプラスチック容器を紙製やバイオマス素材に変えればいいのでは？

A この冊子では、ごみの削減やごみ資源化を目指した内容を紹介しています。紙製やバイオマス素材の容器は自然に分解されやすく、海や川に流れ出る可能性がある場合には環境への配慮につながります。しかしどんな素材であっても、ごみとして出ることには変わりません。ごみを減らすためには、分別を適切に行い、繰り返し使えるものを活用するなど状況に応じた工夫が大切です。

Q2 来場者がリユース食器を持ち帰ってしまうのでは？

A リユース食器の回収率を向上するには、イベント準備段階での工夫が重要です。「デポジット制度(食器を返すと保証金が戻る仕組み)」や、「返却場所を分かりやすくする」「関係者への共有とアナウンスを行う」など、様々な方法で食器の紛失を防ぐことができます。

Q3 ごみの分別をしても、結局リサイクルできないのでは？

A イベントでごみを分別しても、必ずしもすべてがリサイクルされるわけではありません。けれど適切に分別されたごみは、リサイクル率を高めるだけでなく、焼却時の環境負荷を軽減できます。イベントで「どうせリサイクルされないから」と分別をやめてしまうと、本来リサイクルできたものまで無駄になってしまうので、少しでも適切な分別を心がけることが大切です。

Q4 来場者が分別に協力してくれるか不安…

A 分別がしやすいように分かりやすい案内看板を設置したり、スタッフがサポートしたりすることで来場者からの協力を得やすくなります。また、「このイベントはごみを出さない取り組みをしています」と事前に周知することで、来場者の意識を高めることができます。

イベントでごみ削減を実施する流れ(フロー)

STEP1 事前準備(計画)

- ごみ削減の方針を決める
- 分別ルールやリユース食器導入などを検討

STEP2 当日の運営

- 分別ステーションの設置・スタッフの配置
- 来場者へのごみ削減の呼びかけ

STEP3 振り返り

- 排出されるごみがどのくらい減ったかを確認
- 次回に向けた改善点を共有

イベントで排出されるごみを減らす取り組みは全国的に複数の事例があります。それぞれのイベントに合った方法を見つけることがなにより重要ですので、まずはお気軽に管轄行政窓口やサポート団体へお問い合わせください。



ごみを減らして、楽しいイベントを!

イベントごみ 削減ガイド



イベントごみの現状と課題

お祭りや野外ライブ、マルシェ、スポーツ大会など、主に非日常の場で発生するたくさんのごみ。特に飲食を伴う企画では食品容器を中心としたごみが排出され、一度の開催で100kg以上のごみが出されるケースも少なくありません。年間通して開催されているさまざまなイベントがいつまでも愛されるために、ごみを出し続けてしまっている状況と一緒に考えてみましょう。

イベント主催者の困りごと

- ごみをどのように分別すればいいのか、ルールが複雑で迷う。
- 来場者が適切に分別できず、結局ごちゃ混ぜになってしまう。
- 環境に配慮したイベントを開催したいが、どうしたらいいかわからない…
- リユース食器やマイボトルの導入に興味があるが、運用が不安。
- 毎年イベントで街を盛り上げているが、大量のごみが出て、処理が大変。
- 来場者がポイ捨てしてしまい、街の景観が悪化しないか心配。

イベントごみのルール

イベントごみの処理について

廃棄物は家庭ごみと事業系ごみに二分されており、あらゆるイベントにおいて排出されるごみは事業系ごみとして適正に処理しなければなりません。事業系一般廃棄物の処理については、行政の許可を得たごみ処理業者に委託をする必要があり、これらは廃棄物処理法により定められています。

ごみを出し続けるイベントから運営方法をシフトチェンジしてみましょう!

ごみの分別を適切に!

適切な分別を行うことで、
リサイクルできる資源を増やせます。

たとえば こんな分別ルールを設けましょう。

- 燃えるごみ(使い捨て食品容器・紙ナプキン・割り箸 など)
- リサイクル可能な資源(ペットボトル・カン・ビン)
- 生ごみ(食品残さ など)

POINT

- ★ 回収場所を分かりやすく、やさしい分別案内表示を設置する
- ★ エコステーションを設け、スタッフが声をかけてサポートする
- ★ 生ごみについては、水分を焼却処分に混ぜないことで環境負荷を低減することができます!

リユース食器を使ってごみの発生を削減!

ごみの発生を減らすためには、
そもそもごみを出さない仕組みを作ることが大切です。

たとえば こんな仕組みを作ってみましょう

- リユース食器を導入する
- マイボトル・マイカップ持参を呼びかける



PICKUP

岡山市内のイベントではリユース食器を導入することでごみの量を従来と比べて1/10以下にできました!
(2023年度開催 富山文化まつりにて)

参加者によるごみ持ち帰りを案内!

参加者のみなさんに
「ごみを持ち帰ってもらう」取り組みがあります。
しかし、適切に周知しないと
ポイ捨てが発生するリスクもあるため、
しっかりと活動の周知が必要になります。

POINT

- ★ 事前のチラシやWebサイトで「ごみ箱の設置はありません」と案内
- ★ 「ごみは各自持ち帰りをお願いします」と周知、参加者に持ち帰り用の袋を配布する
- ★ 受付や案内所で「ごみゼロイベント」をアピールし協力を呼びかける
- ★ リユース食器などと組み合わせて、極力ごみが出ないような仕組みにする

楽しいイベントをこれからも続けていくために
環境に配慮した工夫を取り入れてみませんか?

